

双葉通信【第 231 回】（被災地に行くNo.22）“ふくしまの切り捨ては許さない”

2024 年 12 月 20 日 上田 勉

【東北のりもの珍百景】

独特の美 橋桁×鋼材 JR 仙山線・第 2 広瀬川橋りょう 高さ 51 メートル
まるで巨大脚立

「脚立のような形状の橋脚が特徴的な JR 仙山線の第 2 広瀬川橋りょう＝仙台市青葉区で
2024 年 10 月 29 日、小川祐希撮影

仙台市と山形市を結ぶ JR 仙山線（仙台駅⇄山形駅）は、仙台市青葉区の陸前白沢駅と熊
ヶ根駅の間でひとときわ高い橋を渡る。1931 年に開通した第 2 広瀬川橋りょうだ。長さは
134・4 メートル、高さは 51 メートルもある。

「トレススル橋」と呼ばれる構造で、巨大な脚立のような見た目の橋脚が特徴的だ。同じ
構造の橋では 2010 年に役目を終えた山陰線の余部（あまるべ）鉄橋（長さ約 310 メートル、
高さ約 41・5 メートル）が有名だが、高さでは第 2 広瀬川橋りょうが上回る。

JR 東日本仙台土木設備技術センターの伊藤彰則・上席グループリーダー（44）は、2001
年の入社から通算して約 9 年間、第 2 広瀬川橋りょうの検査や維持管理に携わってきた。

「周囲の山の景色に映える橋桁の赤色と、鋼材の組み方の美しさは、他にはない」と語る。
その独特の美しさと引き換えに、検査では高所での作業が必要で、恐怖心との闘いだ。

法令で定められた 2 年に 1 度の検査は、主に目視と、ハンマーでたたいて異音の有無を
確かめる方法で点検する。橋桁にある作業員用の通路から、下をのぞき込むこともある。命
綱を付けており落下の危険はないが、それでも「怖いものは怖い。安全だとは分かっている
も足はすくむ」と打ち明ける。

しかし、怖がってばかりでは仕事にならない。そこで伊藤さんは、一つ一つの動作を声に
出して確認することで、心を落ち着けるようにしている。例えば橋桁から下に降りる際には、
はしごに手をかける度に「右手よし」「左手よし」と声を出す。これを徹底することで「安
全であることを一つずつ確認でき、安心できる」のだという。

伊藤さんは、今は 6 人の部下をまとめる立場にある。若手社員には「安全を守ることが最
優先」と教える。「怖さがあるからこそ、作業を安全にできる。『怖い』というのは大切な気
持ちだ」

橋やトンネルなど、伊藤さんは担当する施設を「自分の子供たちのように思う」と語る。
「第 2 広瀬川橋りょうは先人の管理がよく、優秀な子だ。使い続けられるものとはことん
もたせたい」。確かな口調からは「地図に残る仕事をしている」という誇りが伝わってきた。

【小川祐希】＝随時掲載（「毎日新聞」2024/12/8 地方版）



脚立のような形状の橋脚が特徴的な JR 仙山線の第 2 広瀬川橋りょう＝仙台市青葉区で
2024 年 10 月 29 日、小川祐希撮影



第 2 広瀬川橋りょう